

議 事 録

日 時：平成22年12月11日（木）10：00～12：45		会 場：地盤工学会会議室	
部 長 村 田 芳 信	○	理 事 李 圭 太	×
部 員 清 木 隆 文	○	部 員 原 忠	○
部 員 熊 谷 隆 宏	×	部 員 竹 山 智 英	○
部 員 秦 樹一郎	○	部 員 中 野 正 樹	○
事務局 下 山 礼 子	○	事務局 永 田 満 枝	○

【議 題】

一般事項

《報告・確認事業》

1. 議事録者の指名

* 村田理事兼事業部長（以下、部長）が中野を指名した。

2. 前回議事録の確認

* 今回説明を省略したが、異議等なく、議事録を確認した。

3. 平成22年度事業部収支報告（10月末現在）・・・（別紙-3）

* 下山課長から資料に基づき、事業収支に関する報告があった。

- ・ 刊行：10月末で達成率は37.3%、目標値から隔たりがある。新刊本発刊の遅れのため。販売数について丸善は順調、学会関連は、事業部より基準部の書籍の販売数が高い。
- ・ 講習会：10月の講習会は6回、2回が目標達成。しかし目標設定が曖昧である。

4. その他（平成23年度第2次予算案について）

* 下山課長から資料に基づき、予算書に関する報告があった。

・ 一般会計から講習会PR費、刊行事業特別会計から広報費支出を削減して、第2次予算案とした。

出版企画委員会

《報告・確認事業》

1. 前回議事録の確認

* 今回説明を省略したが、異議等なく、議事録を確認した。

2. 各編集委員会および出版作業進捗状況報告

* 今回説明を省略した。

《審議事項》

1. 書籍販売のトレンド・印刷部数について

* 清木部員から資料に基づき、説明があった。

・ 初版部数の推定：学会は販売数の少ない書籍でも大事な書籍は販売する必要がある。一律に販売数を決める（500冊）のではなく、販売数の多い書籍を安価で多く販売することにより販売数の少ない書籍の補完をするという方向性から、初版部数の推定式の提案があった。また推定式に対し、算定例が示された。

・その他の指標：増刷については出版3年目の販売冊数と4年目以降の販売数が線形関係であることから、増版数の目安が示された。

・「近接施工」の定価および初版印刷部数を、上記推定式を用いて提案した。今回の設定とおおむね一致している。

・書籍の遊休資産（資料 p28）：定価×冊数ではなく、書籍の印刷費が主たる資産であり、年数がたつと減価償却してゆく。したがって、在庫書籍は廃棄するよりも安く販売すべきで、問題は増刷のときの印刷費が直接遊休資産となる。したがって初版部数と増刷数の見込みが重要となる。書籍倉庫は千葉県柏にあり、現在契約面積を越えているが保管料は据え置き。平成21年3月の在庫処分（12000冊）により保管料が10000円下がった。

2. 著作権委譲と引用資料の転載許諾の対応ケース（別紙—8）

* 清木部員から資料に基づき、現状が報告された。

- ・事業部執筆要綱と事業部規定とに整合性が曖昧である点がある。
- ・オンデマンドなど2次的利用のルールがないことから、総務部の規程を整備する必要がある。
- ・絶版書籍のオンデマンド化を進めるため、地盤工学会に著作権のない古い書籍については、地盤工学会が責任をとってオンデマンド化するなどの検討が必要。

3. 既刊本の増刷（別紙—9）

* 清木部員から資料に基づき、現状が報告された。

- ・当該書籍（3冊）について、何年まで販売する予定かを推定式で検討する。この件については理事会に報告する。

4. 「セット de お得」の継続について（別紙—10, 11）

* 清木部員から資料に基づき、現状が報告された。

- ・現状は達成率が10%と予想以上に低い。
- ・例年、1～3月に販売数が増加することから、12月までを3月末までに延長したい旨、提案がありこれを了承した。しかし将来、本企画を継続するかは出版企画委員会で検討する。また、サービス延長について販売促進・企画WGにメール審議を依頼する。
- ・企画の周知が不十分であるとの分析から、理事会で、「セット de お得」を定着させたい旨報告する。
- ・広報委員会に働きかけ、HPトップページに本企画を載せてもらう（トップページと売れ行きの相関があるのかの検討も必要、また常にトップページにすることについては議論が必要）。
- ・購入者をターゲットにすべきで、注文者にチラシのコピーを送り周知するなどの意見があった。

5. 委員の交代

- ・都市の地盤編集委員会：津野氏→仲山氏
- ・出版企画委員会委員の追加：深田久氏（（株）不動テトラ）

技術普及委員会

《報告・確認事項》

1. 前回議事録の確認

* 今回説明を省略したが、異議等なく、議事録を確認した。

2. 平成22年度講習会収支報告

*今回説明を省略した。

3. オンデマンドWG 報告

* 原部員より、資料に基づき説明があった。

・内規なく本事業が進んでいるので、ルール化をめざし、現在4回目のWGを開催している。オンデマンドのあり方について、次回WGで議論、答申予定。

《審議事項》

1. 平成22年度および23年度講習会開催計画

* 部長から資料に基づき説明があった。

・計画の変更、来年の計画についての報告、承認した。

2. 講習会アンケート報告

* 部長から資料に基づき説明があった。

・講演時間、難易度については個人差があった。

・講習会のテーマに対して、対象とする人、人、講習会費が決定されるべきである。特に出版書籍の講習会に対しては、難易度、講演会か講習会などが設定されており、それら項目にも対応するよう検討が必要である。今後議論してゆく。

・執筆を依頼したときに、講習会講師、オンデマンドへの展開については事前に周知させるべきである→出版と事業普及を分けて運用するかどうか議論すべき

事業部

《審議事項》

1. 平成22年度事業企画賞について

* 下山課長から資料に基づき説明があった。

・候補案取り纏めは中野が担当することを承認した。

2. 事業部細目等の見直し(資料-21)

* 下山課長から資料に基づき、公益社団法人に伴う規定、細則の見直しについて説明があった。

・社団法人を公益社団法人に変更することを、事務局で修正してもらう。

・特段、上記以外の修正はない。念のため、委員長が見直す。

3. 事業部HPについて

* 下山課長から資料に基づき説明があった。

・別添資料-3の項目について議論。議事録公開については、公開に耐えうるチェックが必要。出版企画委員会の議事録について個人情報や販売情報などがあり、検討の余地あり。理事会で確認することとなった。

・英文ホームページ→英文書籍リストを作成する。

4. その他

1) 来年度の事業計画(別添資料-1,2)

* 村田委員長が案を作成、指摘あれば村田委員長まで。

・(変更) 土木学会→土木学会等

2) 発展史とアカデミック・ロードマップ

* 発展史と人物史は出版事業と捕らえ、事業部に設置、次回の出版企画委員会で検討する。

3)事業部会のあり方についての自由議論（抜粋）

* 技術普及委員会と出版企画委員会の連携も含めた事業部のあり方についての議論。

・新しい事業を増やす場合、古い事業についての役割について整理、再検討する必要がある。

・講習会について：支部の活動が充実してきているので、本部講習会のあり方を再検討すべき。

たとえば、学会がどのような講習会を目指すべきかを議論し、各支部の講習会を調査、支部活動を損なうことなく、支部講習会も利用するなど。

・出版事業について：学会がどんな書籍を出版すべきかの議論がないため、会員が何を求めているのかを調べるべき。たとえば部長クラスにアンケートをとるなど。学会が教科書を出版することを検討。

4)次回開催日

*平成23年2月21日（月）の14時から